

第8講 近代化にともなう社会変動

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 「近代」社会の性質と、そのなかでの家族の変動

1 前回の課題について

課題: 日本社会においては、明治以前とそれ以降でどのような変化があったか。特に、家族に関連する変化に重点を置いて説明せよ。

出題の意図としては、受講者の予備知識や関心の所在を探ることが目的なので、文献を探して根拠のある論述を求めているわけではない。だから、自分の記憶や思い付きで書いてよい。

もちろん、文献を探して書いてもよいのだが、その場合は、出典をきちんと書くこと。

2 家族の形態と前近代の社会制度

「親族」(= 夫婦関係と親子関係による人的ネットワーク) を基礎とした社会制度は、人類社会に普遍的にみられる。しかし、その具体的なありようにはおおきなヴァリエーションがある。(親族関係を記述する用語については第2講資料を参照。)

親族のうち、どの範囲をひとつの集団とみなすかについてのルールは、おおまかに3種類に分けられる:

夫婦家族制 (conjugal family system): 夫婦と未婚の子がセット 結婚すると独立する

直系家族制 (stem family system): 各世代に一組の夫婦のみ 跡継ぎ以外は、結婚すると独立する

複合家族制 (joint family system): 各世代に複数の夫婦が共存する 傍系の親族を多数ふくむ大規模な集団

直系家族制と複合家族制をあわせて「拡大家族制」(extended family system) と呼ぶことがある。また、どの制度のもとでも、夫婦と未婚の子供はかならずひとつの集団に包含される。このため、夫婦と未婚の子供をまとめて「核家族」(nuclear family) と呼び、親族の基本的単位とみなすことが多い。

- 日本の伝統的な家族制度は、上記のどれにあたるか
- それは、日常的にはどのようなことばで呼ばれるか
- この集団は、当時の主流の産業や地域での生活とどのようにかかわっていたか
- 親族関係にある集団同士の関係はどのようなものか

3 前近代から近代へ

近代化 (modernization)

- 政治面の変化: 国民国家; 民主化; 福祉国家
- 経済面の変化: 分業と市場経済の発達; 産業化; 雇用労働者化
- 生活様式の変化: 合理化; 都市化; 学校教育; 家族の機能縮小

近代化する社会における前近代的セクターと近代的セクターの併存 (二重システム = dual system)

- 都市 vs. 村落
- 雇用者 vs. 家族経営的自営業

近代化が進展する途上を「前期近代」、社会のほぼ全体が近代化してしまったあとを「後期近代」と呼んで区別することができる。

4 「近代家族」とは

4.1 家族の機能縮小

近代以前の社会において家族が果たしてきた主要な社会的機能 (social function) としてはつぎのようなものがある。

- 家業の経営
- 扶養と safety net
- 生活の協同 (居住・家計・家事)
- 生殖
- 子供の教育 と社会化 (socialization)
- 親密な人間関係

近代化とともに、家族の機能は少なくなってきた (印のものが縮小)。この機能縮小の過程は、日本社会では、20世紀はじめごろから、都市部のサラリーマン層で進展した。日本社会全体にひろまるのは高度経済成長期 (1970年代ごろまでにほぼいきたる)。

4.2 近代家族と家族問題

近代家族は、近代化に適応してできた合理性を持つ家族制度である。

- 産業化した社会のなかで「労働力の再生産」を担う集団
- 初期段階の子供の社会化
- 家族を単位とした生活保障システム

他方、この制度にはさまざまな問題もある。「家族問題」とされる現象のほとんどは、近代家族の特徴に関係している

- 市民社会の原理 (自由と平等) との齟齬: 特に性別役割分業と男女平等の関係 女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法
- 情緒的親密さと暴力のコントロール: ドメスティック・バイオレンスと虐待の問題
- 人口の再生産: 未婚化と少子化